

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470200652
法人名	社会福祉法人泰生会
事業所名	グループホーム「リベラ・ホーム別府」
訪問調査日	平成20年12月25日
評価確定日	平成21年2月19日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4470200652
法人名	社会福祉法人 泰生会
事業所名	グループホーム「リベラ・ホーム別府」
所在地	別府市大字鶴見中山田1068番地の1 (電話)0977-66-9988

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年12月25日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 8年 6月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 4 人, 非常勤 3人, 常勤換算 5人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 階建ての	4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,650 円		

(4)利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	安部第一医院 安部消化器内科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1	別府湾が一望できる静かで落ち着いた環境に立地している。
2	職員は内外の研修参加や自身の振り返りを図りつつレベルアップできるシステムができており、利用者に対して本人の暮らしぶりを尊重しつつ「力をのばす」ためのケアをさりげなく実践している。
3	介護教室、防災、ボランティア等地域との連携も積極的に行い、継続していくなかで広がりをもった関わりへと繋がっていている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果をもとに、グループホームの目標を明確に掲示し申し送り時に確認することで、職員の意識向上が図られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価に際してミーティング時に自己評価票を1項目ずつ職員で話し合い、全職員で検討会を設けて作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的開催し、メンバーである活け花ボランティアの方からはボランティアの際に利用者や接する中での変化等情報提供してもらい、日々のケアに活かす等している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年4回程度開催する家族会で全体の意見交換、個別の相談の時間を設けており、アンケートも行い意見収集をしている。また、家族代表が苦情処理委員のメンバーとなっており、意見を運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の幼稚園、小、中学校や児童施設との交流、施設の夏祭り、介護教室や消防署を招いての災害時の講話は自治会を通して案内しており、地域の方々にも参加してもらい、出来る限り多くの人々と交わる機会を設けている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の理念、基本方針にある「住みなれた地域で、利用者本位に途切れない支援」に沿った支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや施設内勉強会等の場で理念を共有し、全職員で取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の幼稚園、小、中学校や児童施設との交流、施設の夏祭り、介護教室や消防署を招いての災害時の講話へは自治会を通して案内しており、地域の方々にも参加してもらい、出来る限り多くの人々と交わる機会を設けている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果をもとに、グループホームの目標を明確に掲示し申し送り時に確認することで、職員の意識向上が図られた。今回の評価に際してミーティング時に自己評価票を1項目ずつ職員で話し合い、全職員で検討会を設けて作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、メンバーである活け花ボランティアの方からはボランティアの際に利用者や接する中での変化等情報提供してもらい、日々のケアに活かす等している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	別府市グループホーム協議会で2ヶ月毎に開催している勉強会へ、市職員に参加してもらったり、日々の業務などで疑問点がある場合は担当者へ連絡するなどしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎に発行している新聞を送付して、行事案内や利用者毎に担当者から近況報告をしている。また、年4回程度開催する家族会では全体の意見交換、個別の相談時間を設け、ケアプランの確認や報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時にアンケートを行い、意見収集をしている。また、家族代表が苦情処理委員のメンバーとなっており、意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的に人事異動があるが、ホームの夜間宿直は併設施設の職員も含めて全体で対応しており、日頃から利用者との馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月毎に法人全体や部署での勉強会を開催しており、テーマは職員の希望を募り、内容に応じて外部講師を招くなどしている。勉強会終了後は職員に振り返りシートを記入してもらい、理解度や今後学びたいテーマなどの意見も出してもらっている。また、外部の研修会や学会などにも出席している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会に入会しており、2ヶ月毎に開催する勉強会や交流会へ積極的に参加している。また、市外や県外の施設との交流も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族は事前にホームへ遊びにきてもらったり、利用者の自宅や入院先の病院を職員が訪問して顔馴染みの関係を築いている。入居後当初は家族や馴染みの方に訪問してもらい、不安を取り除くなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	月に数回行う調理の際に利用者に料理を教えてもらったりするなど、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアでの関わりから気付いた希望意向等を「気付き点」として、原因・対応・結果・提案まで含めて分かりやすくまとめ、必要事項は利用者毎の台帳に記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見をもとに、ケアマネジャー、看護師、ライフサポーター(介護職員)、栄養士でカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週のミーティング時にモニタリングを行いながら、定期的に見直しをしている。また、常に介護計画書と現状を照らし合わせ、相違がある際は利用者や家族に確認しながらその都度、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、観劇、行きつけの美容院利用、本屋での買物など利用者の希望に添った対応をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連携をとりながら、利用者ごとのかかりつけ医、事業所の協力医等で支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用開始時に利用者・家族へ方針を説明しており、職員も方針を共有して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員勉強会や自己チェック表で自らの振り返り、利用者の対応を職員間で評価し合えるシステム作り等の取り組みをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物、衣類の管理、新聞のスクラップ、仏壇のお参り等、利用者がこれまで「何を大切にしてきたか？」に配慮して支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回ホームで調理を行い、利用者と共に調理や盛り付け、片付け等を行い、季節感のある献立を職員と共に囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添った対応が出来るようにユニットバスを導入しており、毎日の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物、調理、米とぎ等、利用者の力を発揮できるような役割や楽しみ事ができるような支援を心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地の施設内や近所の公園への日常的な散歩や月1回程度、お弁当を持ってぶどう狩りや花見などのドライブも行っている。また、家族も積極的に外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が出かけるときには声かけや一緒に出かけるなどして、安全面に配慮した対応を行っている。出入口は施錠しているが、誰でも開けられるようにしている。また、近隣の施設等に見守りや連絡をしてもらえるような関係作りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、地区と合同で防災訓練を実施しており、消防署と連携した訓練も定期的に行っている。また、緊急連絡網に地域住民が含まれており、地域との連携も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,800～2,000kcal、水分1,000cc～1,200ccを目安にし、施設内の栄養士の栄養指導を受けながら、利用者の希望や病状等に応じた献立作りを行っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな自然光がそそぐホールにはゆったりと落ち着けるソファがあり、季節感のある利用者手作りのタペストリーや置物などがおいてあり、くつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からは、別府湾が一望でき、仏壇や使い慣れた家具があり、一人ひとりの暮らしぶりに合わせて家具の配置や安全へ配慮した工夫をするなどし居心地の良い場所となっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「リベラ・ホーム別府」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	別府市
記入者名 (管理者)	兩宮 洋子
記入日	平成20年12月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設の理念及び、お世話の基本方針に沿い、日々のケアをおこなっている。また地域への行事への参加だけでなく、今後も地域の方に参加して頂ける行事を取り入れている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々職員一人ひとりの意識向上のため、毎朝の申し送り時や、施設内勉強会等において確認し、施設理念の実現に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>面会時には、最近の様子と共に地域との結びつき、地域交流情報などについて説明をし、又、地域を招いての行事には御家族等の参加を促している。交流行事を行いながら、地域の中での役割を実践しながら理解して頂ける努力を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>生け花等のボランティアや近隣の児童施設の子供達の通学コースとなっているため、日常的に挨拶や、又行事の案内を行い参加して頂いている。また、隣接している公園には、多くの子供連れの方が来られ、利用者が散歩の際、お話をされるなどのつきあいができるように努めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>住宅地とは離れた環境ではあるが、近隣の児童施設の子供達との交流が活発である。地域のお祭りなどにも声をかけて頂いている。</p>	<p>○ 地域の行事などにも参加したいが、道が険しい為困難がある。しかし、地域の幼稚園の行事に参加するなど、少しずつ機会を増やしている。その他参加できる行事には、今後も積極的に参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員で解決できる相談は積極的に応じ「困ったことがあればあそこに相談すればいい」と思ってもらえるように取り組んでいる。毎月地域住民を対象とした、「介護者教室」を開催している。又、地域の方からの相談に対して、適切なサービスに結びつけるため、地域包括支援センター等にも協力をお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員それぞれ行い、検討会をおこなっている。評価項目により、各自の理解度の違いを修正することに役立っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表からの率直な意見を得るため、日常的に利用者との交流を図りやすい配慮を行っている。会議の中で、近況及び、今後の予定についての意見を頂きながら、さらにサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点がある場合は市担当者へ連絡をとっている。また、別府市グループホーム協議会等を通じて市への連携を取り、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員勉強会で地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について講師を招き行っている。施設入所の際や、相談に対して説明を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会にて高齢者虐待に関する研修会を行っており、2か月に1回個人毎に行う自己チェック項目にも虐待に関する項目を盛り込んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃から家族の不安等を職員に言いやすい雰囲気づくりを行い、利用者、家族等に重要事項の説明、納得の上契約を行っている。又、解約の際は不安点や不明な点について尋ね、状況に応じて対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理に関する説明を掲示及び重要事項説明書に明記、苦情等ご意見箱を設置し、苦情処理のための委員会を開催し、家族代表・家族代表に委員をお願いし、ご意見を頂き運営に反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回担当者より、近況を新聞についてお知らせしている。又、家族会を開催し、集団での意見交換や個別の時間を設け、ケアプランの確認を行いながら報告を行っている。又、特変があった場合はその都度電話等で連絡を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理に関する説明を掲示及び重要事項説明書に明記、苦情等ご意見箱を設置、その他家族会や行事の際にアンケートを行い多くの意見を収集、苦情処理のための委員会を開催し、家族代表に委員をお願いし、ご意見を頂き運営に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の会議や年3回の全職員会議を意見交換の場としている。また、職員からの意見の出やすい職場環境づくりや個人の自己チェック表に要望等を記入できるようにしており、出来る限り利用者の方が安心して生活できる環境づくりの為に意見を反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位のケアに努めており、状況の変化には、職員が柔軟に対応出来るように配慮している。また、ローテーションに入っていない職員がいるため、状態の変化により、柔軟な勤務体制をとることができる。また、利用者の重度化に対しては、利用者等と入所時から先を考えての意見交換を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当施設は夜間宿直体制をとっているため、同一敷地内にある併設私設職員が宿直を行ったり、平素より、施設間交流が活発なため、職員と利用者が顔見知りとなっており、利用者の混乱なく異動が行われている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に行っている。また、自主研修参加に関する職員の希望にも出来る限り応じている。又、必要な図書購入や職員の勉強したいこと等を募り、施設内勉強会のテーマとし、適任の講師を招き勉強を行っている。勉強会終了後、振り返りシートを記入してもらい、理解度の確認や、今後深めていきたいテーマ等の意見を参考にしている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市内のグループホーム連絡協議会に入会しており、協議会主催の研修会や交流会に積極的に参加している。また、市内のみならず、他施設との交流の為、様々な研修会への参加を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常及び面談時、又は自己チェック表に記入してもらい、ストレスや悩みについて個別に対応している。また、外部の研修会参加等により、他事業所との交流、親睦の場をつくり気分転換できるように配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者自身が頻繁に現場に顔を出し、自ら利用者と過ごしたり、職員の業務についての把握を行っている。また、自己チェック表や振り返りシートを基に、職員の意欲等を把握し、職員が向上心をもって働けるように配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前のアセスメントを十分行い施設を利用するにあたり、変化することを出来るだけ具体的にお話している。又、実際に利用前に施設を訪問して頂き、雰囲気を見て納得した上で利用して頂くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前のアセスメントを十分行うよう配慮している。又、実際に利用前に施設を訪問して頂き、雰囲気を見て納得した上で利用して頂くようにしている。家族の思いと利用者の思いの相違の確認を行い、今後のサービス内容の方向性を確認している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人および家族の抱えている悩みや不安を少しでも取り除けるような配慮を行い、相談時の本人や家族の思い、状況の確認のうえ、改善に向けたプランの提示を行う。単独での援助が不可能な場合は、地域包括支援センターや他事業所との連携を行う。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に事業所に遊びに来て頂いたり、利用当初の不安感を取り除くため、ご家族やそれまでに関わってきた方に来て頂いて頂くなどの配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントを行い、職員が理解することにより、利用者の持っている力を引き出すことが出来ると考えている。利用者は人生の先輩であることを意識し、利用者から学ぶ姿勢を忘れないように心がけている。利用者の思いを知ることに努め、利用者が持っている力を発揮できるような場を想定しながら援助し共に支えあえる関係づくりを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等へは、季節毎の行事に参加を促し、出来る限り利用者と過ごす時間を設けると同時に、家族の思いや、家族にしか打ち明けられない利用者の思い、職員だからこそ聞ける利用者の思い等を共有しながら利用者を協力して支えていけるように配慮している。また、利用者の細かな変化も電話等でお知らせしている。利用者を家族と一緒に支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族等と本人の思いを見極めながら、外出や外泊を促し、一緒に過ごす時間を作れるよう行事に家族等の参加を促すことにより、良い関係が継続出来るように配慮している。特に家族・親族等が集まるような、盆・正月には出来る限り外泊等を進め、利用者についていつでもより家族の一員としての役割分担を担って頂けるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問等の受け入れを積極的に行っている。又、年賀状、暑中見舞い等の文を出す等の援助を行っている。そのほか、行きつけの美容室を利用している方や、昔からの友達の訪問・交流の援助、等継続的な援助が出来るように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で楽しく過ごす時間や、気の合う同士で過ごせるような時間をつくり配慮を行っている。また、感情が日々時々変化する利用者の状況に配慮し、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となり、支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談等あればいつでも応じることが出来る旨を説明。その後の相談や、在宅復帰後のフォローアップを利用者の担当居宅支援事業所の介護支援専門員との連携を図りながら支援できる体制を整えている。退所後、同一敷地内のサービスを利用されている方はお互いの事業所内の行き来を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けを行い、利用者の言葉や表情等から思いを汲み取りながら、把握に努めている。本人にとってどのような生活が望ましいのかを家族等と検討しながら行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際に利用前に利用前のアセスメントを十分行うよう配慮している。また、利用前には語って頂けなかった本人の思いを知るため、折に触れ聴いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するため、行動や小さな動作から利用者の現状に努め、「できること」「できないこと」を把握し、「できないこと」を「できること」にかえることができるために必要な本人の能力を引き出す観察を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やご家族には日頃から思いや意見を聞き反映させる努力をしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。利用者、家族等と相談しながら介護計画の作成を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前に見直しを行っている。期間終了前であっても常時、介護計画と照らし合わせながら、現状との相違がないかを利用者・家族等と確認しながら計画の変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画に沿って日々の様子をいろいろな視点から記録を行っている。又、就業前に必ず申し送り簿等確認を義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を生かし、利用者にとって負担となる受診や医療処置を受けながらの生活の持続等の役割を担っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の方が安心して楽しみながら地域で生活を続けられるように地域ボランティアとして幼稚園児の訪問、趣味の支援、また、非常時の対策として、地域交番との連絡、消防署参加の訓練、非常災害時のための協力等をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者・家族等の意向の確認を行いながら、必要に応じて他のケアマネジャーや事業所と連絡をとり、サービス利用のための支援を行うことが出来ることの説明を行っている。利用者それぞれの可能性を考えながら、利用者・家族等に提示し、調整を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議を通じて、利用者・家族等との関係が強化され、地域の情報が入りやすくなった。また、後見制度が必要と考えられる方のサポートとして協力をお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるように家族等と連携をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医が協力医となっており、職員が相談しやすい環境となっており、診察・治療が容易に受けやすい環境となっている。その他、専門医の協力を得ながら、又、認知症に関する勉強会を開催・参加を行い職員の知識向上を図り、利用者・家族等が安心して診察や治療を受けやすい環境づくりに心がけている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康状態や状況の変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を図っている。また、施設の看護職員のみならず、利用者のかかりつけ医院の担当看護職員等との気軽に相談できる関係を築いている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による環境の変化を極力回避するために医師・ケースワーカーと連絡を取り合い、利用者の混乱を少なくなるように、入院施設への普段の様子等具体的にお知らせし、出来る限り早期に退院できるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス開始時から重度化・終末期についての話し合いを行っている。状態の変化がある毎に、利用者・家族等との連携を取りながら支援を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取り指針に沿って連携をとり、利用者・家族等と事業所の「できること・できないこと」を具体的に説明している。又、自宅での終末期を望まれる方には、地域の社会資源や担当居宅介護支援事業所の介護支援専門員、医師等との連携を行うこととしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所に移られる場合は場合は事前に利用者・家族等に了承を得て、アセスメント・ケアプラン等の情報交換を行っている。他事業者の担当の方に施設への訪問を依頼し、なじみの関係を作ってもらったり、住み替え時や住み替え後訪問する等の配慮を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の観点から規定を作成しており、職員勉強会等を通じて意識向上し、日々の関わりのなかで職員同士が確認し合っている。自己チェック表を記入し、自ら振り返ると共に、利用者に対する他職員の対応がどうであるのかを評価し合えるシステムが出来ている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉の説明だけでなく、具体的に視覚に訴えたり等の配慮を行いながら、自分の持てる力を発揮できる支援を行っている。また、利用者に合わせて声かけを行い、出来る限り複数の選択肢を提示し、自ら選ぶことが出来るように配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、利用者の体調や気持ちを尊重しその人のペースで生活をしていただけるような支援を行っている。施設で決めた行事やスケジュール等に全員参加する必要はなく、利用者のその時の希望により行動していただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服は基本的には利用者が決め、職員は見守り、支援を行っている。また、理容美容は利用者・家族等が望む店を利用できるように支援したり、利用者の希望のカット・毛染め・パーマ等出来るように配慮している。行事等、利用者の生活週間に合わせて、化粧やおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の常備菜等作るなど、季節を楽しみながらの料理作り等を心がけ食事を楽しんで頂けるような配慮を行っている。調理、盛り付け、片付け等、利用者と共にやっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	初回アセスメント時から、嗜好品等について聞き取りを行い、利用者の様子や時間を見ながらの援助を行っている。また、利用者の好みに応じていつでも飲み物等飲むことが出来るように整えている。現在はたばこを吸われる方はいないが、喫煙所を設けており、他利用者の迷惑にならないような支援を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個人の習慣や排泄パターンを把握し、トイレ誘導することにより、トイレでの排泄を促している。また、トイレの場所がわかりやすい配慮をしている。誘導方法にも配慮し、利用者の自尊心を傷つけない支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも利用者の希望により、入浴が出来るようにユニットバスも用意している。また、利用者の裸になる不安や羞恥心、恐怖心を配慮しながらの援助を心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者それぞれの生活パターン、体調、希望を配慮し支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の背景のアセスメントを行い、利用者が出来ることを生かした支援を心がけ自分らしさを発揮できるような役割分担を行い、利用者自らが楽しめる援助を心がけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かって事業所が管理しているが、外出時などは自分で払って頂けるように配慮している。また、利用者によっては家族の協力を得て少額のお金を持っているよう配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族との結びつきを大切にすることの目的も兼ね、家族との外出も積極的に援助している。天気や利用者の状態・希望により日常的に散歩等で外出出来るように支援し、お弁当を持っての外出等も活発に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の思いを聞きながら、ご家族の協力を得て外出の機会をつくっている。花見や菖蒲鑑賞・紅葉狩り等ご家族にも付き添って頂きながら外出できるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等に協力を得て、暑中お見舞いや年賀状等、出すことが出来るように支援している。また、いつでも電話が出来るように御家族等に協力をお願いしている。面会になかなか来れない方には、ご家族等からの電話やお手紙を依頼している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪れて頂けるような雰囲気づくりを心がけている。他の利用者に気兼ねせず、過ごして頂けるように、利用者の部屋以外にも、喫茶コーナー等を作っており、ゆっくりとお茶を楽しめるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り時やその日の振り返りを大切にし、他職員から見たケアの質、2か月に1度の自己チェック表の提出などケアの振り返りを行っている。また、高齢者の権利擁護事や身体拘束に関する勉強会を行い、職員の共有認識として図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したそうな様子がある時は、さりげなく声掛けをおこなったり、一緒に出かけたり安全面に配慮しながら、自由に暮らせるように援助している。鍵は誰でも開けることが出来るようにしている。近隣の施設等にも理解を求めており、見守り、声掛け連絡をしてもらえるような関係づくりを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者と同じ空間にいて、日々利用者の動きやサインを見逃さないようさりげなく全員を把握できるように努めている。夜間は宿直体制のため、利用者が快適に暮らせるような環境づくりを日々行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の日々の状況に対応しながら、注意を促し、過分にならない危険回避を行っている。画一的でなく利用者の状況により管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護・看護面・緊急時の対応に関する勉強会を行い共有、徹底している。また、事故(ヒヤリ・ハットを含む)をすべて報告書を作成し、今後の対応についてもその都度検討を行い事故防止に取り組んでいる。また、一人ひとりの状態に合わせ、支援方法を検討しながら、職員全体で共通意識を持ち、事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成しており、周知徹底をおこなっている。緊急時マニュアル等、見直しを行いながら、すべての職員が緊急時、事故発生に対する訓練を定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しており、月1回の防災訓練を行っている。又、消防署と連携を図り、消防署員立会にての訓練を定期的に行っている。消防署や近隣施設等に災害時の応援をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に起こり得るリスクについて入所時の契約の段階から説明し、利用者が安心して暮らせる環境づくりに努めている。また、定期的及び随時個別に見直しを行い、現在の起こりうるリスクに対応する対策を検討し、対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より、かかりつけ医との連絡体制をとっており、毎日のバイタルチェックや利用者の持病やアレルギーの有無等普段の様子を職員全体で共有しており、普段の様子と違う些細なことにも注意し、変化がみられた場合はかかりつけ医と連携をとり、早期の受診等に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースに整理しておき、職員が把握できるようにしている。服薬時は必ず利用者に手渡したり、きちんと服用できているか確認している。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化がみられる時は、看護職員やかかりつけ医と連携をとれるように配慮し、家族等にも連絡、対応に当たっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり食材の工夫や、運動等を取り入れ日常的に身体を動かす機会を設け自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きを促し、利用者の状態に応じて見守ったり、解除を行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。また、口腔ケアの勉強会を行い口腔ケアの大切さや、具体的な磨き方の勉強を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや状態を配慮しながら、食事・水分を提供している。また、摂取量を記入し、不足している場合は補食の提供を行っている。また、栄養士による栄養指導を受けながら、利用者の希望を入れて献立の作成を行っている。また、利用者の状態に応じて食事の形態を変更している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会を併設施設と合同で設置しており、マニュアルの作成、感染症に関する情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めている。利用者・家族等の同意を得て、職員と共にインフルエンザの予防接種を受けている。また、保健所の担当者からの感染症に関する講義を受けるなどにより全職員の意識向上に役立っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布きんは毎日漂白し、清潔に心がけている。調理器具・水回り、冷蔵庫内の清潔・衛生を保つように努めている。冷蔵庫内や取っ手、流し台等にも定期的に消毒を噴霧する配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は誰でも立ち寄れるカフェコーナーを設けており、季節の花を生けるなどの季節感を味わっていただけるような配慮をしている。また、近隣の方が、生け花を見に来たり、月1回のミニピアノコンサート等を行い、より親しみも持ち、訪ね易い雰囲気づくりを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	総合思い出活動として五感への刺激を大切にしている。利用者方にとってストレスにならないか、常に意識して援助しながら援助している。職員のみならず、運営推進委員の方など、外部の方にも意見を求めながら、利用者にとって負担のない環境づくりを心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態の変化や利用者同士の関係に配慮しながら独りで過ごせるような時間や空間を確保すると共に、利用者の仲のよい同士でのくつろげる居場所づくりをおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

幾多の湯煙が昇る全国有数の温泉地別府で、周りは緑にあふれ、春には桜、秋には紅葉をゆったり満喫、ベランダからは別府湾を一望でき、晴れた日には四国まで見渡すことができます。また、隣接し、鉄輪地獄地帯公園があり四季の草花木を楽しむことができます。この環境を生かしながら安心して暮らせる住環境を整備。文化あふれる環境づくりを目指し、豊かな文化活動を通して楽しく精神機能の活性化を図るアクティビティを実施しています。

認知症の方が自分の持っている力を最大限に引き出し、自分らしく生活を続けていけるような支援を行っています。家族等との連携を図り、利用者と家族との結びつきを大切にするため、日々情報交換を行ったり、地域密着型の特性を生かし、地域の一員としての受けるだけでなく、担い手としての参加することが出来るような関係づくりに取り組んでいます。

なお、当施設ではグループホームを単に小さな家庭的な施設と考えるのではなく、ノーマライゼーションの理念を達成するための施設解体のプロセスの1里塚と捉え、グループホームを核にした地域ケアを最終目標に、「老いても安心して暮らせる街づくり、人づくり、地域福祉生活文化づくり」を目指しています。